

第6学年B組 国語科学習指導案

授業者 小室 真紀
研究協力者 成田 雅樹、高橋 茉由
教材分析者 岡 英里奈

1 単元名 書きたい世界が広がる「作家の時間」

2 子どもと単元

(1) 子どもについて

作文を書くことを苦手とする子どもの多くは、「うまく書けない」「何を書いたらいいのかわからない」ことを理由に挙げ、作文を書くこと自体にあまりいい印象はもっていない。書かされている実感も拭いきれない実態が目の前にあった。

「作家の時間」が始まって早々、「弟の気になるところ」を原稿用紙2枚に書き連ねてきたA児。弟のことを「あくま」時には「あいつ」と呼び、兄弟間のいざこざを赤裸々に書いた途中までの作文をクラスメイトの前で発表した。その時の題名が「あくまの皮を被った天使」であったことに矛盾を感じた子どもたちからは、「あくま」と「天使」の使い方が逆ではないのかと指摘を受けるのだが、待っていましたとばかりに、いつもは「あくま」のように感じる弟を思う愛情が今回のテーマであることを話し始めた。テーマと題名との関連はもとより、読み手を引きつけようと内容や構成を工夫しようとしたA児からは「作家の時間が楽しくなってきた」という明るい表情が見えた。

全体的に、一度書き終えてしまうとその段階で満足してしまい、文章を読み直し気になるところを削ったり書き直したりすることになかなか向き合おうとしないことが課題である。推敲をすることは、自分の文章に出会い直すことである。このことを通して新たな発見が生まれる創造的な活動であることを実感する子どもの姿を期待している。

(2) 単元について

考えながら書き、書きながら考える「作家の時間」。そこには、自身に問いかけ続ける自分が存在する。「なぜそう思ったのだろうか。」「本当にそれだけだろうか。」「他の表現はないだろうか。」「自分の中で反芻される問いかけ、友達から投げかけられる問いかけ、友達同士の話を機に浮かび上がる自分への問いかけ。小さな問いかけの重なりが、気付きを生み出し、書きながら何度も考え、再び考え直す土台となっていく。書くことで生まれる発見である。更に自分が書いた文章を読み直しているとき「こんなことを考える自分もいたんだ」と新しい自分に出会える瞬間も文章を書く醍醐味であると考えられる。本単元「書きたいことが広がる『作家の時間』」では、書きながら考え、考えながら書くという創造的な学びを楽しいと実感していく姿を「学びのものさし」を働かせている子どもの姿と捉えている。

「作家の時間」では、書く内容を決めるのも自分、どんな文種にするかを決めるのも自分、どんなペースで書くかを決めるのも自分というように自由度が高い中で選択・決定は自分に委ねられている。毎時間の「作家の時間」は全体で行うミニレッスンに始まり、その後は自分が書きたいことと向き合う時間になる。書いていく中で、書く内容に悩んだり情報を収集したくなったり、書いた文章に意見が欲しくなったりしたときは、友達との学びの交流が始まる。そして毎時間の最後は学びを共有する。「作家の椅子」に座った子どもが作品を紹介し、友達と感想や意見を交換したり、発見した学びを紹介し合ったりする場である。

(3) 指導について

作家の時間の最初に位置付けているミニレッスンでは、よりよい作品を目指すときのよりどころとなるように、文章を書く技術を学ぶ場となる。毎時間のミニレッスンで扱う内容は、子どもの現状を捉えた上で、何を欲しているのかを適切に判断し厳選して行うことを大事にしていきたい。しかし、ミニレッスンの内容が現在取り組んでいる作品にすぐさま活かされるといった性急さは求めない。ミニレッスンで学んだことを使ってみたくなったり自然に文章に表現されたりしたときに感じる表現に対する納得が学びの自覚化であると捉えたい。

ひたすら書く活動がこの時間の中心となる。書くことが楽しいという主体的な気持ちを支えていくためにも、目の前の子どもがどういう状態にあるのかを十分に把握した上でよき共感者として受容的にカンファレンスを進めていく。質問を投げかけながら子どもと対話をしていく中で、作品をよりよくしていくスキルを提案していくが、その提案を取り入れるかどうかの選択・決定は子ども自身に委ねたい。自ら考え、考えながら書くことそのものが創造性をゆるやかに育んでいこうと期待している。

学びの積み重ねを頼りに、自分自身に問いかけながら何度も考え、考え直し、自分の気持ちや考えを伝えるのに最も適した表現を模索しながら書くという資質・能力を高めていく。

3 単元の目標〈記号は本校の資質・能力表による〉

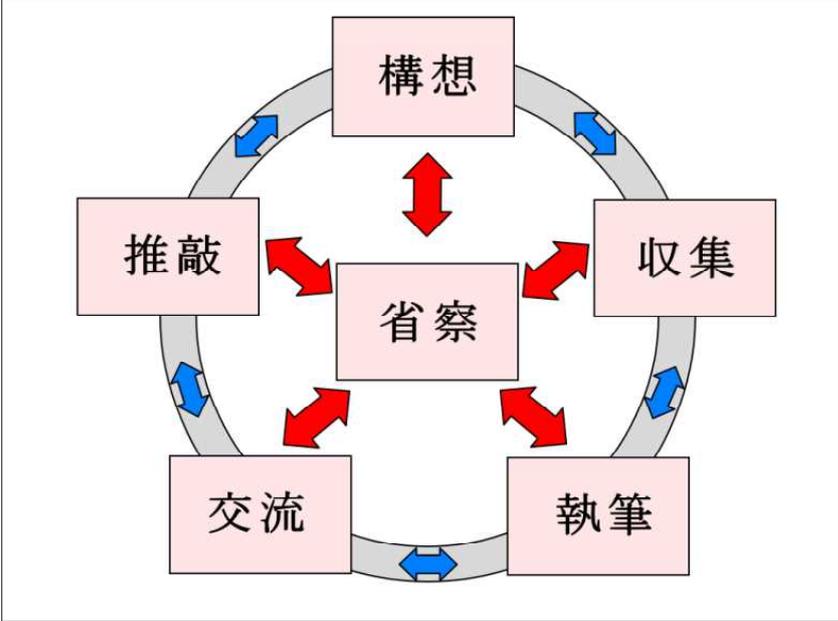
(1) 自分の考えを伝えるのに最も適した文種や表現方法を選択し、その特長を活かしながらかけることができる。 (B-39)

(2) 象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に活かしたりすることができる。

(B-11・21・19・31)

(3) 自分の文章を読み返したり、友達の文章を読んだりすることによって、自分の文章に問いをもちながら、根気強く推敲しようとしている。 (B-40・42)

4 単元の構想（総時数30時間）

時間	学習活動 (・は予想される子どもの姿)	教師の主な支援	評価〈本校の資質・能力との関連〉									
3 24 14 / 24 本 時	(1) オリエンテーションを聞く。 ①作家になるということ ②作家になるために ③「作家の時間」での約束 (2) 作家として5つの文種で執筆する。 ・説明文 ・意見文 ・報告文 ・エッセイ（紀行文を含む） ・詩（俳句を含む） 学習課題 書きたい内容をどの文種で書いたら読み手に伝わりやすいのかを吟味して書こう。	<ul style="list-style-type: none"> 作家というのは自分や他の人たちの心を動かし新しいものを生み出す人であり、書く内容も文種も書くペースも自分で決めることができることを伝え、文章を書く活動が自由な中で進められる創造的な活動であるというイメージを広げ意欲を高める。 1年間で5つの文種それぞれを1回は書くことを伝え、文種ならではの長所を捉えたり、「読む」学習で学んだ文章構成や表現の工夫などを活用して書いたりできる場とする。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の考えを伝えるのに最も適した文種、表現方法を選択して、その長所を活かしながら書こうとしている。 〈B-39〉 									
	(3) 書く活動のサイクル 		<ul style="list-style-type: none"> 問いをもつことが考えを深めていく実感につながるように、5つの文種のどれでもが省察を中心に据えた「書く活動のサイクル」の連続とする。 5つの文種のうち、どの文種から始めてもよいことを伝える。また、書いている途中で行き詰まったり納得がいかなかった場合は、一端手放し再度向き合う「一端つづくと書いて一端を閉じてよいことを伝え、書く活動に苦手意識を緩和していく。 									
	<table border="1"> <thead> <tr> <th data-bbox="240 1563 284 1675"></th> <th data-bbox="284 1563 579 1675">子どもの姿を予想したミニレッスンの例</th> <th data-bbox="579 1563 1066 1675">ミニレッスンを支える手立て</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td data-bbox="240 1675 284 1839">説明文</td> <td data-bbox="284 1675 579 1839"> ・文章構成 ・接続詞 </td> <td data-bbox="579 1675 1066 1839"> ・これまで学習してきた説明文が頭括型、尾括型、双括型のどれにあてはまるのか類別し、それぞれの長所を捉え直したり読み手側への効果を実感できる場を設定したりする。 </td> </tr> <tr> <td data-bbox="240 1839 284 2098">意見文</td> <td data-bbox="284 1839 579 2098"> ・主張の仕方 ・語尾が与える印象 </td> <td data-bbox="579 1839 1066 2098"> ・メリット、デメリットの一方を述べたときと両方を述べたときの読み手に与える印象を比較し、メリットとデメリットを書く順序性についてもふれながら相手を説得するためのよりよい方法を探っていくよう方向付ける。 </td> </tr> </tbody> </table>		子どもの姿を予想したミニレッスンの例	ミニレッスンを支える手立て	説明文	・文章構成 ・接続詞	・これまで学習してきた説明文が頭括型、尾括型、双括型のどれにあてはまるのか類別し、それぞれの長所を捉え直したり読み手側への効果を実感できる場を設定したりする。	意見文	・主張の仕方 ・語尾が与える印象	・メリット、デメリットの一方を述べたときと両方を述べたときの読み手に与える印象を比較し、メリットとデメリットを書く順序性についてもふれながら相手を説得するためのよりよい方法を探っていくよう方向付ける。		<ul style="list-style-type: none"> 説明的な文章の典型構成を知り、目的や意図に応じた、自分の考え及び、相手の理解が明確になる構成になっている。 〈B-19〉 事実と意見、原因と結果を明確にして論理的に文章を書いている。 〈B-31〉
	子どもの姿を予想したミニレッスンの例	ミニレッスンを支える手立て										
説明文	・文章構成 ・接続詞	・これまで学習してきた説明文が頭括型、尾括型、双括型のどれにあてはまるのか類別し、それぞれの長所を捉え直したり読み手側への効果を実感できる場を設定したりする。										
意見文	・主張の仕方 ・語尾が与える印象	・メリット、デメリットの一方を述べたときと両方を述べたときの読み手に与える印象を比較し、メリットとデメリットを書く順序性についてもふれながら相手を説得するためのよりよい方法を探っていくよう方向付ける。										

3	報告文	<ul style="list-style-type: none"> ・記事の逆三角形 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告したい内容を伝えたい順番に並べ替える活動を通して、読み手の立場に立った文章構成の工夫の仕方を新聞記事の構成の仕方から学ぶ場を設定する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・大事な事柄から順に、構成を工夫して書いている。 (B-11) ・体験したときの様子や調べた内容が分かりやすく伝わるように、五感を働かせて書いている。 (B-21) ・比喻表現によって強調される意味や内容があることを知り、自分の表現に活かしている。 (C-58) ・書いたものを読み合いよいところを見つけて感想を伝え合ったり、表現の仕方をよりよくするための助言をしたりしている。 (B-40・42)
	エッセイ	<ul style="list-style-type: none"> ・五感を使った表現 	<ul style="list-style-type: none"> ・筆者が発見したことへの感動の表現を探し出す活動から五感を働かせた表現のよさに気付くことができるよう、星野道夫の「森へ」を提示する。 	
	詩	<ul style="list-style-type: none"> ・比喻の種類と効果 	<ul style="list-style-type: none"> ・先輩が書いた作品の比喻の部分を切り取り、自分だったらどんな表現の仕方で書くかを想像し合う場を設ける。 ・「スイミー」や「やまなし」を取り上げ、対比させながら用いる比喻の効果的な使い方に触れる。 	
(4) 出版する。				

◎本単元で育む主な資質・能力

自分の感じたことや考えたことを伝えるのに最も適した文種や表現方法を選択し、その特長が活かされているのかを模索しながら書く。(B-39)

5 本時の実際 (17/30)

(1) ねらい 同じ文に「順接」と「逆接」を入れ替えて比較したり、「逆接」を用いた前後の文の関係性やその意味を考えたりする活動を通して、接続語を用いた表現の特長と効果を理解し、表現の工夫を蓄積させながら自分が見たい内容を書きたい文種で書き進めることができる。(B-39)

(2) 展開

○「学びのものさし」を働かせて省察したり、自律的に学習を進めたりするための支援

時間	学習活動	教師の支援 評価																					
12分	① ミニレッスンで接続語について考える。	<ul style="list-style-type: none"> ・「逆接」を挟んだ後ろの文は、前の文と対応した上で反対の内容を意味する文になることや接続語が書き手の意図や気持ちを含むことに気付くことができるよう同じ文に「順接」「逆接」のそれぞれの接続語を入れ、比較する場とする。 <p>○「逆接」の前後の文の関係性に違和感を抱く例文(「一つの花」より)を提示し「逆接」の特長と効果を実感する場とし表現の幅を広げる。</p>																					
25分	② 書きたい内容を書きたい文種で書く。	<p>○書きたい内容も文種も書くペースも自分で決める自由さを保障する。文種は「エッセイ」「説明文」「意見文」「報告文」「詩」などとし、書きたい内容に合った文種で書くよう伝える。</p> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th>文種</th> <th>予想される子どもの反応</th> <th>カンファレンスでの問いかけ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことが決まらない ・題名と内容がかみ合わない ・推敲の仕方が分からない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップの中で意外性のある部分はどれか ・題名を見せず友達に読んでもらい、一番伝えたいことは自分が思っていたことと同じかを当ててもらおう ・友達に読んでもらい感想を聞く </td> </tr> <tr> <td>エッセイ</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「したこと」の連続で「感じたこと」がない ・平易な心情描写のみ </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかった」とき体のどこに変化があったか ・一つの場面をスローモーションで見つめ直したことを書いてみることの提案 </td> </tr> <tr> <td>説明文</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例が合っていない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例をそれぞれカードにし、友達に組み合わせてもらい補う部分や削る部分はどこかを確かめる </td> </tr> <tr> <td>意見文</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・主張したいことが一方的 </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・反対の主張をもつ相手の反論も予測した改善点に触れたときとそうでないときを比較してみると、納得度に違いはないか </td> </tr> <tr> <td>報告文</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・報告の内容が重複している </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・報告したい内容の大きさを考慮しナンバリングし並べ直してみる </td> </tr> <tr> <td>詩</td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・比喩の効果が感じられない </td> <td> <ul style="list-style-type: none"> ・比喩の部分を隠し友達に当ててもらったり、何を喩えたかを尋ねたりすることで吟味し直すことを提案 </td> </tr> </tbody> </table>	文種	予想される子どもの反応	カンファレンスでの問いかけ		<ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことが決まらない ・題名と内容がかみ合わない ・推敲の仕方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップの中で意外性のある部分はどれか ・題名を見せず友達に読んでもらい、一番伝えたいことは自分が思っていたことと同じかを当ててもらおう ・友達に読んでもらい感想を聞く 	エッセイ	<ul style="list-style-type: none"> ・「したこと」の連続で「感じたこと」がない ・平易な心情描写のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかった」とき体のどこに変化があったか ・一つの場面をスローモーションで見つめ直したことを書いてみることの提案 	説明文	<ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例が合っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例をそれぞれカードにし、友達に組み合わせてもらい補う部分や削る部分はどこかを確かめる 	意見文	<ul style="list-style-type: none"> ・主張したいことが一方的 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対の主張をもつ相手の反論も予測した改善点に触れたときとそうでないときを比較してみると、納得度に違いはないか 	報告文	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の内容が重複している 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告したい内容の大きさを考慮しナンバリングし並べ直してみる 	詩	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩の効果が感じられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩の部分を隠し友達に当ててもらったり、何を喩えたかを尋ねたりすることで吟味し直すことを提案
文種	予想される子どもの反応	カンファレンスでの問いかけ																					
	<ul style="list-style-type: none"> ・書きたいことが決まらない ・題名と内容がかみ合わない ・推敲の仕方が分からない 	<ul style="list-style-type: none"> ・イメージマップの中で意外性のある部分はどれか ・題名を見せず友達に読んでもらい、一番伝えたいことは自分が思っていたことと同じかを当ててもらおう ・友達に読んでもらい感想を聞く 																					
エッセイ	<ul style="list-style-type: none"> ・「したこと」の連続で「感じたこと」がない ・平易な心情描写のみ 	<ul style="list-style-type: none"> ・「うれしかった」とき体のどこに変化があったか ・一つの場面をスローモーションで見つめ直したことを書いてみることの提案 																					
説明文	<ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例が合っていない 	<ul style="list-style-type: none"> ・説明したいことと具体例をそれぞれカードにし、友達に組み合わせてもらい補う部分や削る部分はどこかを確かめる 																					
意見文	<ul style="list-style-type: none"> ・主張したいことが一方的 	<ul style="list-style-type: none"> ・反対の主張をもつ相手の反論も予測した改善点に触れたときとそうでないときを比較してみると、納得度に違いはないか 																					
報告文	<ul style="list-style-type: none"> ・報告の内容が重複している 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告したい内容の大きさを考慮しナンバリングし並べ直してみる 																					
詩	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩の効果が感じられない 	<ul style="list-style-type: none"> ・比喩の部分を隠し友達に当ててもらったり、何を喩えたかを尋ねたりすることで吟味し直すことを提案 																					
8分	<p>③ 今日の振り返りをする。</p> <p>ホットシーティング (全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・同じ種類の接続語でも、用いる接続語によっては、書き手の意図や気持ちが見え隠れすると思った。自分も使ってみよう。 ・今日の作家の椅子では、友達の表現の工夫による変化を読み手として実感した。今後の推敲に活かしたい。 	<p>○ミニレッスンで提示した接続語の表現を用いて活動した子どもを今日の「作家の椅子」の場面で紹介する。読み手としてどんな効果を感じたのか、よりよくするためのアドバイスや質問をホットシーティングの形で取り上げることで、子ども自身が表現の仕方などを考えながら書き、書きながら書くことの楽しさを実感できる場とする。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>同じ文に「順接」と「逆接」を入れ替えて比較したり「逆接」を用いた前後の文の関係性やその意味を考えたりする活動を通して接続語を用いた表現の特長と効果を理解し、表現の工夫を蓄積させながら自分が見たい内容を書きたい文種で書き進めている。(B-39) (発言・ノート・シート)</p> </div>																					

令和6年度 国語科実践・研究計画

部員	○鎌田 佳佑、工藤 優花、菅野 宣衛
----	--------------------

研究テーマ
自覚的に言葉の力を働かせ、言葉とよりよく向き合う子どもを育む学び

1 研究テーマについて

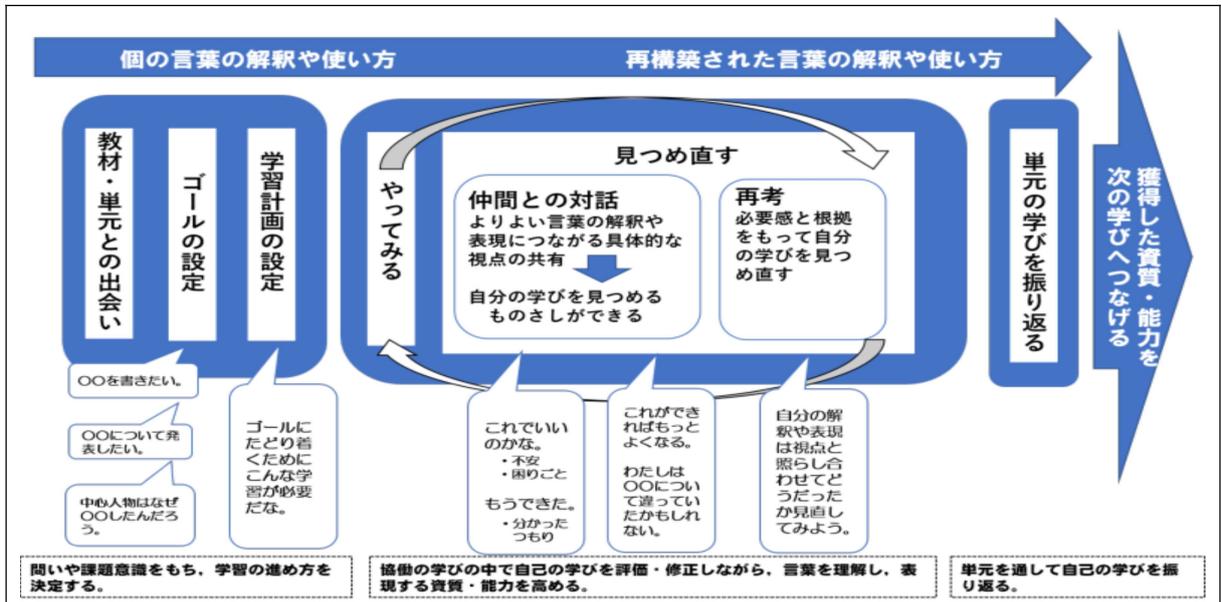
国語科の学習は、これまで何気なく使ってきた言葉を学習の対象として意識的に捉え直すことで、自らの「言葉の力」を更新することである。この「言葉の力」は、情報の獲得・発信や他者とのコミュニケーションなど、日々の生活の中で行われる様々な言語活動の基盤となる。

言葉の選び方、使い方一つで受け手の印象が変わる。言葉の解釈の幅が、対象の正しい理解や豊かな想像につながっていく。教材を越えて「言葉の力」と日常生活とのつながりが見えてくる。言葉を深く学び直す機会は、国語を学ぶ意義や楽しさの実感につながるが、生涯に渡って言葉とよりよく向き合おうという気持ちを育むであろう。

昨年度の実践で、目的に応じてミニ・レッスンやホットシーティングを授業に位置付けることで、解釈や表現を見つめる「学びのものさし」を共有する場となったり、解釈や表現の選択肢を広げ、選択・決定をしたりする子どもの姿が見られた。一方で、より自律的に言葉と向き合う子どもの姿を引き出すためには、子ども自身が他者に働きかけてたくなるような、言葉に対する「問い」が生まれる活動の工夫を考へる必要性が見えてきた。個の学びと協働の学びを往還する中で「学びのものさし」を活かして言葉に関する「問い」と向き合い、言葉の使い方や解釈を更新していく子どもの姿を期待し、本テーマで実践を積み重ねていく。

国語科で目指す自律した子どもの姿

- ・ 根拠をもって自らの解釈や表現を吟味し、言葉を正確に理解してよりよく表現しようとする姿
- ・ 言葉の効果や言葉に着目した学び方のよさを自覚し、単元を越えて活用する姿



図：国語科 自律した学習者を育てる学習のプロセス

2 研究の重点〈○は具体的な取組の例〉

よりよい解釈や表現を生み出す言葉に関する「問い」を、「学びのものさし」を活かして吟味する場の設定

- よりよい解釈や表現について、主体的に再検討する姿を引き出すために、解釈のずれや対立点、疑問を明らかにする。また、自らがどのような言葉の力を用いながら学習に臨んでいるのか自覚した上で、「学びのものさし」を活用できる活動の工夫をする。
- 子どもの実態に応じて「自分の考えはどのように変わったのか」「なぜ、そう考えたのか」「学んだことは何か」という視点で、自分の言葉に関する選択・決定を振り返る場を設定する。

令和6年度「国語科の資質・能力」表

※□は、資質・能力の取り扱い学年、■は、定着学年を示す。

内容		学習指導要領との関連内容			1年	2年	3年	4年	5年	6年
		1・2年	3・4年	5・6年						
国語科の学びに向かう力、人間性等	ア 国語で伝え合う力を進んで高めるとともに、国語に対する関心を深め、国語を尊重しようとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■
	イ よりよい話し方、聞き方を意識して、進んで話したり聞いたりしようとする。	A	A	A	■	■	■	■	■	■
	ウ 自分の思いを書いて伝えることのよさを見付けたり楽しさを感じたりしながら、進んで書こうとする。	B	B	B	■	■	■	■	■	■
	エ 書かれている事柄の順序や文章の構成、場面の様子などに気付いたり、想像を広げたりして読もうとしている。	C	C	C	■	■	■	■	■	■
	オ 表現したり理解したりするために、必要な語句を進んで増やそうとする。	全般	全般	全般	■	■	■	■	■	■

国語科の各領域の付けたい力 A話すこと・聞くこと	1 場に応じて、適切な声量や速さで、はっきりとした発音で話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	■	■	■	■	■	■
	2 結論を先に、理由を後につけて発言する。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	3 身近な出来事について、適切な長さでスピーチをする。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	4 相手との関係や、その場の状況に応じた言葉遣いで話す。	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	A(1)ウ、知(1)キ	□	□	□	■	■	■
	5 傾きや眼差しなどで相手に反応を示しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	■	■	■	■	■	■
	6 話の内容を落とさず、間違いなく聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	7 話の中心点を理解して聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	8 身近なことや、自分が経験したこと、観察したことなどの中から話題を決める。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	9 日常生活の中で考えたことや特に伝えたいと思うことなどから話題を決める。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	10 学校や家庭、地域のことなどで興味や関心をもっている事柄を想起し、一つの話題に絞る。			A(1)ア					□	■
	11 話すために必要な事柄を思い出して書き出す。	A(1)ア	A(1)ア	A(1)ア	□	■	■	■	■	■
	12 本や文章を読む、人に聞く、図表や絵、写真などを見るなどの方法から選択し、調べたことの要点をメモする。		A(1)ア	A(1)ア			□	■	■	■
	13 取材した内容を比較したり、関連のあることをまとめたり、分類したりして、自分の考えに生かす。			A(1)ア					□	■
	14 相手の話に対する賛否を明確に表す。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	■	■	■	■	■	■
	15 相手の話の口を挟まずに聞く。	A(1)エ	A(1)エ、知(1)イ	A(1)エ、知(1)イ	■	■	■	■	■	■
	16 丁寧な言葉と普通の言葉の違いに気を付けて話す。	知(1)キ	知(1)キ	知(1)キ	□	■	■	■	■	■
	17 起こった事柄の順序にしたがって話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	■	■	■	■	■
	18 分かったこと、考えたことについて、筋道を立てて話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	19 大事な事柄から話す。	A(1)イ	A(1)イ	A(1)イ	□	□	■	■	■	■
	20 聞き逃したことを問い返したり、不明確な点や確かめたいことを問いただしたりする。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	■	■	■	■	■
	21 図表や映像を提示したり、身振りや手振りで内容を補ったりして話す。	A(1)ウ	A(1)ウ	A(1)ウ	□	□	■	■	■	■
	22 複数の事柄を比較しながら聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ	□	□	■	■	■	■
	23 必要な情報を選んで聞く。	A(1)エ	A(1)エ	A(1)エ		□	■	■	■	■
	24 話し合ったことを基に、自分の問題意識を深めたり、焦点化したりする。	A(1)オ	A(1)オ	A(1)オ	□	□	■	■	■	■
	25 聞いたことを正確に再現して話す。	A(1)アイ	A(1)アイ	A(1)アイ	□	□	■	■	■	■

8	ひとまとまりの語や文として音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	■	■	■	■	■	■
9	言葉の響きやリズムなどに注意して音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	■	■	■	■	■
10	強弱や間の取り方、抑揚の付け方などに注意して、読み取ったことがよりよく伝わるように音読する。	知(1)ク	知(1)ク	知(1)ク	□	□	■	■	■	■
11	文章全体の内容や構成からその中心を把握し、軽重や速さなどを考えて音読する。		知(1)ク	知(1)ク			□	■	■	■
12	七音五音を中心としたリズムから国語の美しい響きを感じ取りながら音読したり暗唱したりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	□	□	□	■	■	■
13	語り手や登場人物の人物像をとらえ、どのように語りたかを決め、声の大きさ、声の質や速さ、間の取り方などに気を付けて音読する。		知(1)ク	知(1)ク				□	■	■
14	文章全体に対する思いや考えをまとめ、そのことを相手に分かってもらえるように表現性を高めて朗読する。			知(1)ク					□	■
15	目的に応じて、「比べ読み」「速読」「摘読」「多読」など多様な読み方を選択し、活用する。			知(1)ク					□	■
16	書かれている事柄の違いを比較することで、その意味が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
17	説明されている事柄の位置関係や構造を、図示したりしながら正確に理解する。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
18	事柄の原因と結果の関係が分かる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
19	話の筋や論理の展開が分かる。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	■	■	■	■	■
20	書かれていることの特異性と一般性、具体性と抽象性の類別をして、文章の構造や内容を理解する。		C(1)ウ	C(1)ウ		□	□	■	■	■
21	時間的な順序や事柄の順序などを考えながら文章の大体を読む。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア	□	■	■	■	■	■
22	「問い」と「答え」という基本構成をとらえ、「問い」に対する「答え」を読み取る。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	■	■	■	■	■	■
23	「始め」「中」「終わり」の文章構成をとらえ、中心となる文を手がかりに要点をまとめる。	C(1)ア	C(1)ア	C(1)ア		□	□	■	■	■
24	「序論」「本論」「結論」の三部構成をとらえ、中心となる段落を手がかりに文章の要旨をとらえる。		C(1)ア	C(1)ア				□	□	■
25	累加や並列といった接続関係、具体的な事象と抽象的な事象、結論とその理由や根拠といった配列関係などの段落相互の関係をとらえながら読む。		C(1)ア	C(1)ア			□	■	■	■
26	中心となる語や文に注目して要点をまとめたり、小見出しを付けたりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	■	■	■
27	筆者がどのような事実を原因や理由として挙げ、それについてどのような考えや意見を述べようとしているかをとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
28	事実を説明している言葉の指し示す範囲に揺れがないかどうか考える。		C(1)アウ	C(1)アウ				□	□	■
29	文章に書かれている話題、理由や根拠となっている内容、構成の仕方、巧みな叙述などに注意して、求められている分量や表現の仕方に合わせて要旨をとらえる。			C(1)ア					□	■
30	筆者の意図や思考を想定しながら文章全体の構成を把握し、自分の知識や経験、考えたことと関係付け、自分の考えを明確にしながらか読む。			C(1)アオ					□	■
31	文章構成を区分することによって、文章の要旨や主題を的確にとらえる。		C(1)アウ	C(1)アウ			□	■	■	■
32	図表や、絵、写真等が、どのように文章を補っているかを考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ			□	□	■	■
33	筆者の書き方の工夫やよい点・不十分な点を考えながらか読む。	C(1)ウ	C(1)ウ	C(1)ウ	□	□	□	□	■	■
34	筆者の主張の根拠が適切かどうか考えながらか読む。		C(1)ウ	C(1)ウ				□	□	■
35	結論と具体的事例の整合性を判断しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
36	筆者の推論や解釈、例示などの妥当性を吟味しながら読む。		C(1)ウ	C(1)ウ					□	□
37	物語に共感し、書かれていることの実偽や善悪、美醜、有用・無用の判断をしながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
38	事柄や人物の設定(誰が・いつ・どこで・何をした)が分かる。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	■	■	■	■	■	■
39	物語の展開に即して各場面の様子が変わったり、中心となる登場人物の行動が変化したりしていくことを把握し、その様子を想像しながら読む。	C(1)イ	C(1)イ	C(1)イ	□	■	■	■	■	■
40	登場人物の行動や会話に即しながら、それぞれの登場人物の性格を押さえ、それらの人物像を読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
41	人物描写の特徴から、その人物のものの見方や考え方の特徴や言動の変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	■	■	■
42	物語のクライマックスを見つけ、そこで起きている出来事から分かる強調点や変化の意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ	□	□	□	□	■	■
43	各場面の様子に気を付けながら場面と場面を関係付けて読む。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ		□	□	□	■	■
44	物語や詩の描写を、想像力を働かせながらか読む。		C(1)エ	C(1)エ			□	■	■	■
45	書かれていることを基に問いをつくり、答えを仮定したり根拠となる言葉を探したりする。		C(1)イエ	C(1)イエ		□	□	■	■	■

46	題名や見出しから、文章の要旨や主題を推察する。		C(1)イエ	(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
47	情景描写の特徴から、作品主題との関連や人物のものの見方や考え方のありようを考える。		C(1)イエ	C(1)イエ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
48	一つ一つの事件・出来事の関連性から見出される意味を考える。	C(1)エ	C(1)エ	C(1)エ				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
49	ストーリーの展開に気を付け、描写の特徴や言葉の象徴性など、読み取ったことがより豊かに伝わるように朗読する。		知(1)ク	知(1)ク				<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
50	登場人物相互の関係に基づいた行動や会話、情景などを通して暗示的に表現されている心情を読む。			C(1)エ						<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
51	句読点の打ち方の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input checked="" type="checkbox"/>						
52	反復が強調している事柄の意味が分かる。			知(1)ク	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
53	助詞や助動詞の違いで文意が異なることが分かる。	知(1)ウ	知(1)ウ	知(1)ウ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
54	指示語や接続語が文と文との意味のつながりに果たす役割が分かる。	知(1)カ	知(1)カ	知(1)カ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
55	文末表現によって文の意味合いが変わってることが分かる。	C(1)イウ	C(1)イウ	C(1)イウ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
56	漢字・ひらがな・カタカナなどの表記の違いによって、多義的になったり、意味が限定されたりすることに気付く。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
57	オノマトベ(擬声語・擬態語等)の表現によって強調される意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
58	比喩表現(直喩・隠喩・擬人法等)によって強調されている意味・内容があることが分かる。	知(1)オ	知(1)オ	知(1)ク		<input checked="" type="checkbox"/>					
59	省略、倒置、対句など、構成上の表現の工夫によって強調される意味・内容があることが分かる。			知(1)ク			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
60	使われている語彙・表現の多義性や象徴性を考える。			知(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
61	象徴性や暗示性の高い表現や内容、メッセージや題材を強く意識させる表現や内容などに気付き、それらを評価したり、自分の表現に生かしたりする。			C(1)オ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
62	自分の思いや考えをもつことに強く影響した言葉や文を適切に書き抜く。	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
63	自分の考えをまとめるために、文章の要点や細かい点に注意して読み、引用したり要約したりする。		C(1)ウ	C(1)ウ			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
64	感動やユーモア、安らぎなどを生み出す優れた叙述に着目して、自分の考えを感想文や解説文などにまとめる。			C(1)カ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
65	文章の内容と自分の経験とを結び付けて、自分の思いや考えをまとめて発表し合い、交流する。(劇、話し言葉による発表・交流、書き言葉で表したものを読み合う)	C(1)オ	C(1)オ	C(1)オ	<input checked="" type="checkbox"/>						
66	楽しんだり知識を得たりするために本や文章を選んで読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input checked="" type="checkbox"/>						
67	身近な生活や自身の問題意識に基づいて選択する図書分野を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
68	複数の読み物の内容から、共通点や違いを見つけてながら読む。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
69	筆者や作者、ジャンルなどの関連を意識して、読書の幅を広げ、進んで読書しようとする。	知(3)エ	知(3)エ	知(3)エ			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
70	同じ課題について違う筆者が執筆した本や文章、同じ筆者の複数の本や文章を選んで、読み比べる。			知(3)エ					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
71	見出し・記事・写真の一貫性や「逆三角形の構成」など、編集の仕方や記事の書き方などに注意して新聞を読む。		C(1)ア	C(1)ア					<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
72	昔話や神話・伝承などの本や文章の読み聞かせを聞いたり、発表し合ったりする。	知(3)ア	知(3)ア	知(3)ア	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
73	優しい文語調の短歌・俳句について情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら音読や暗唱をしたりする。		知(3)ア	知(3)ア			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
74	ことわざや慣用句、故事成語などの意味を知る。		知(3)イ	知(3)イ			<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
75	親しみやすい古文や漢文、近代以降の文語調の文章について、内容の大体を知り、音読する。			知(3)アイ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>
76	古典の解釈文を読み、昔の人のものの見方や感じ方を知る。			知(3)イ					<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

<国語科の学びを支える「見方・考え方」>

a 自分が伝えようとしている内容と言葉の関係に着目し、最も適した語句や表現技法を選び、その特長を活かして表現する。

b 語句の関係や表現技法の差異に着目し、文や文章表現の意味を豊かに、かつ具体的に理解する。

<領域の学びを深める「見方・考え方」>

話すこと c 音声の使い方、言葉や文末表現、表情などに着目して、その場に最も適切な表現を考える。

聞くこと d 相手の伝えようとする話の内容に着目して、自分の考えと比べるなどして共通点や相違点、関連などを整理しながら考えをまとめる。

書くこと e 目的や意図に応じた表現や文章構成になっているか、読み手の立場から、相手が読んで理解しやすいか考える。

読むこと f 構成や叙述に着目し、言葉や文を関係付けながら読む。